

今月の特集関連本 ⑤

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1515) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



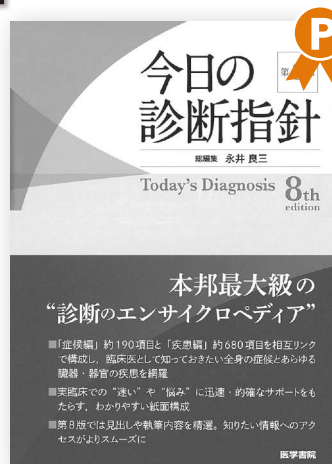
新臨床内科学 [ポケット判]

第 10 版

矢崎義雄＝監修

本体 18,000 円＋税／A5 判・2000 頁／医学書院／2020

症状・疾患の理解のツボを存分に盛り込んだ構成にリニューアル。試験に出ることの多い各疾患の特徴や臨床実習での注意点など、特に重要なポイントを囲みとして強調。章の冒頭に「理解するためのポイント」を新設し、各症状・疾患の全体像や学習のコツをまとめた。もちろん、定評のあった病態生理や診断・治療などの解説も充実。試験対策や実習、そして臨床と幅広い場面で役に立つ内容となっている。デスク判もあり (24,000 円＋税)。



今日の診断指針 [ポケット判]

第 8 版

永井良三＝総編集

本体 19,000 円＋税／B6 判・2114 頁／医学書院／2020

本邦最大級の情報量を誇る「診断のエンサイクロペディア」。「症候編」約 190 項目と「疾患編」約 680 項目を相互リンクで構成し、臨床医として知っておきたい全身の症候とあらゆる臓器・器官の疾患を網羅。エビデンスに基づいた最新知識＋各領域におけるエキスパートの経験則を 1 冊に凝縮。第 8 版では見出しや執筆内容を精選。知りたい情報へのアクセスがよりスムーズに。デスク判もあり (25,000 円＋税)。



「誤診」はなくせるのか?

実践知としての診断エラー学の世界

Pat Croskerry, Karen S. Cosby, Mark L. Graber, Hardeep Singh＝原著

綿貫 聡、徳田安春＝監訳

本体 5,000 円＋税／A5 判・456 頁／医学書院／2019

どのような名医でも誤診をする。一方、診断エラーは医師の能力不足だけで起こるわけではない。認知科学・行動経済学・脳科学などの最新研究を用い、目にも見えないいくつかの原因を 1 つずつ解明する。診断を客観的に分析した世界的名著の邦訳版。